

## 活動テーマ

若者 Z 世代が好む柑橘製品の開発

ときがわ町大附地区 十文字学園女子大学

### 1 活動目的

「若者 Z 世代が好む柑橘製品」をコンセプトとして、ときがわ町の特産柑橘である「福みかん」の爽やかな味や香りなどの特徴や魅力をより多くの人に知ってもらい、柑橘産業の振興や地域活性化に貢献することを活動目的とした。

### 2 活動地域の現状

ときがわ町の人口は 10,566 人（2023 年 2 月 1 日時点）で人口減少の一途を辿っており過疎化が深刻な地域である。ときがわ町大附地区では「福みかん」や「桂木柚子」などの柑橘類が伝統的に栽培されており県内有数の柑橘生産地であるが、後継者不足が大きな課題となっている。

### 3 活動内容

本学学生は「福みかん」の小ぶりでかわいらしい見た目、爽やかな香り、酸味のある味に着目し、「若者 Z 世代が好む柑橘製品」をコンセプトとして決定した。本学学生とときがわ町の地域の方々と「福みかん」を活用した商品企画に関するグループワークを対面及び Zoom で行い、商品企画、加工、販売までを行った。プレスリリース、試食会などを通し、対外的にときがわ町の「福みかん」の味や香りなどの特徴や魅力を発信した。

### 4 成果

「若者 Z 世代が好む柑橘製品」をコンセプトとした商品開発に向けて、町民の方々の意見交換会の実施や「福みかん」の収穫、オリジナルラベルの制作まで一貫して取り組み、およそ 4 ヶ月の開発期間を経て「HAPPY CITRUS CRAFT COLA 福みかんコーラ」を地域の方々と一緒に共同開発した。また福みかんジャムや、福みかん胡椒、チョコがけ福みかん、福みかんチョコランチなどの加工食品の試作品の開発も行った。完成した加工食品は、「埼玉県農商工連携フェア」の食品開発学科ブースで出展した。福みかんコーラに関しては学内の売店や地域のときがわ町の直売所等で販売されている。

### 5 課題

「福みかん」を活用した柑橘製品（福みかんコーラ、福みかんジャム、福みかん胡椒、チョコ菓子）の試作を実施したが、福みかんは種が多く、果皮は大変苦く、加工は大変難しかった。レシピや工程は改良する必要がある。「福みかん」の栄養成分が不明で、正しい栄養表示が出来ない。栄養成分を分析する必要があるため食品分析試験に取り掛かる予定である。「福みかん」柑橘製品の賞味期限設定をするための微生物検査と官能評価試験をする必要があり初期コストがかかるのが課題である。

## 6 次年度以降の計画

次年度は「福みかん」を活用した柑橘製品の改良レシピ開発と和菓子屋・洋菓子屋・カフェ・うどん店・蕎麦店などへの訪問を行い、店舗に置いてもらい、お客様アンケートを取得することで食品開発に活かしたい。また、ときがわ町のことをもっと知りたいので、山や川、古民家カフェや農村レストランなどまで隅々を巡って魅力を発見したい。ときがわ町の小中高生に対して「福みかん」の魅力の発信や食品開発の楽しさなど食育活動も行っていきたい。

以上



ときがわ町玉川公民館で「若者Z世代が好む柑橘製品」をコンセプトとした商品開発に関するグループワークを実施した（2022/09/12）



学生全員参加で福みかんの収穫、皮むき、搾汁準備を実施した（2022/11/03）



2月1日 埼玉農工商連携フェア（さいたまスーパーアリーナ）に「福みかん」商品を展示し、「ときがわ町」と「福みかん柑橘製品」の広報活動を実施した（2023/02/01）